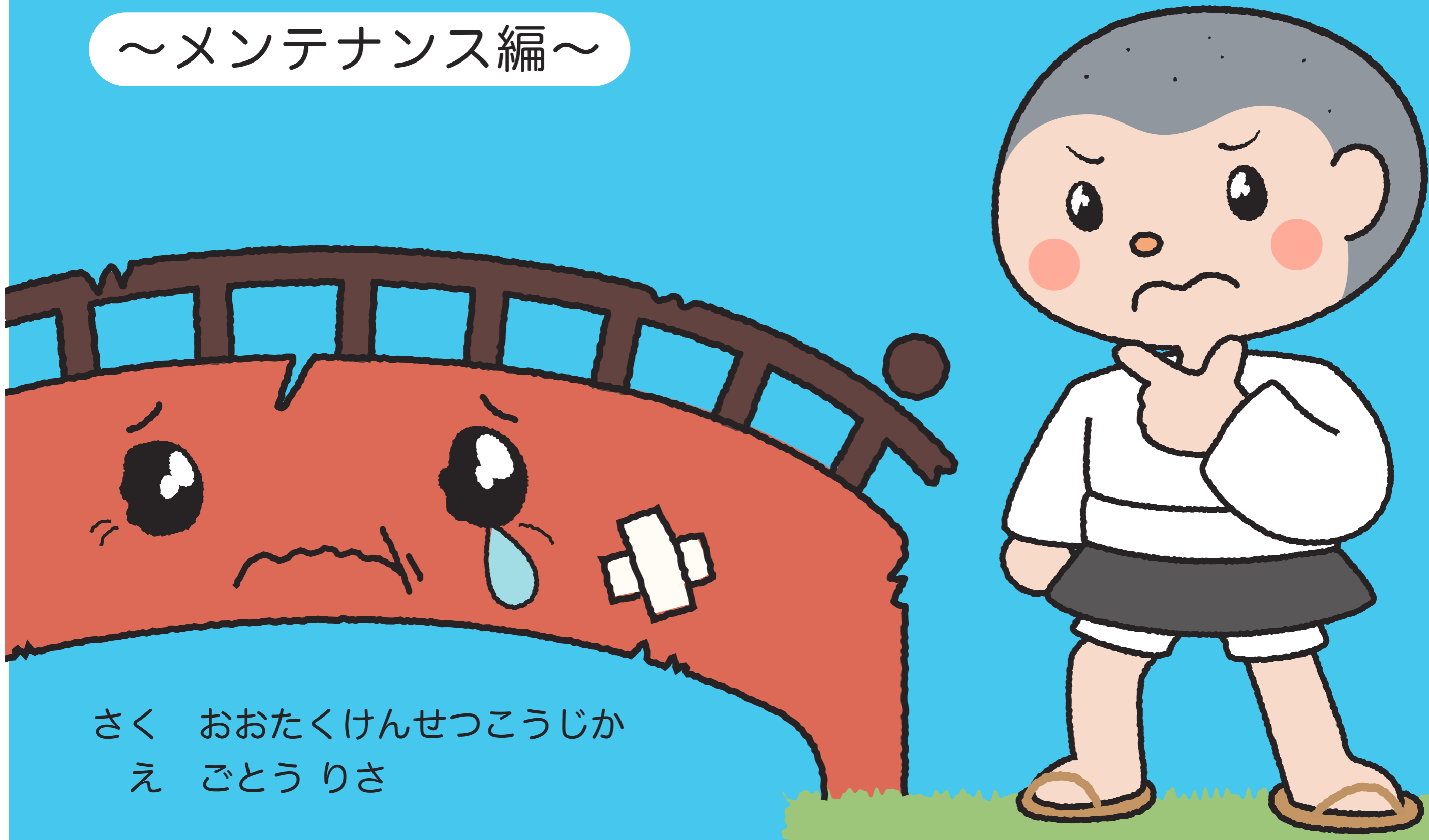


このはし わたるべからず

～メンテナンス編～

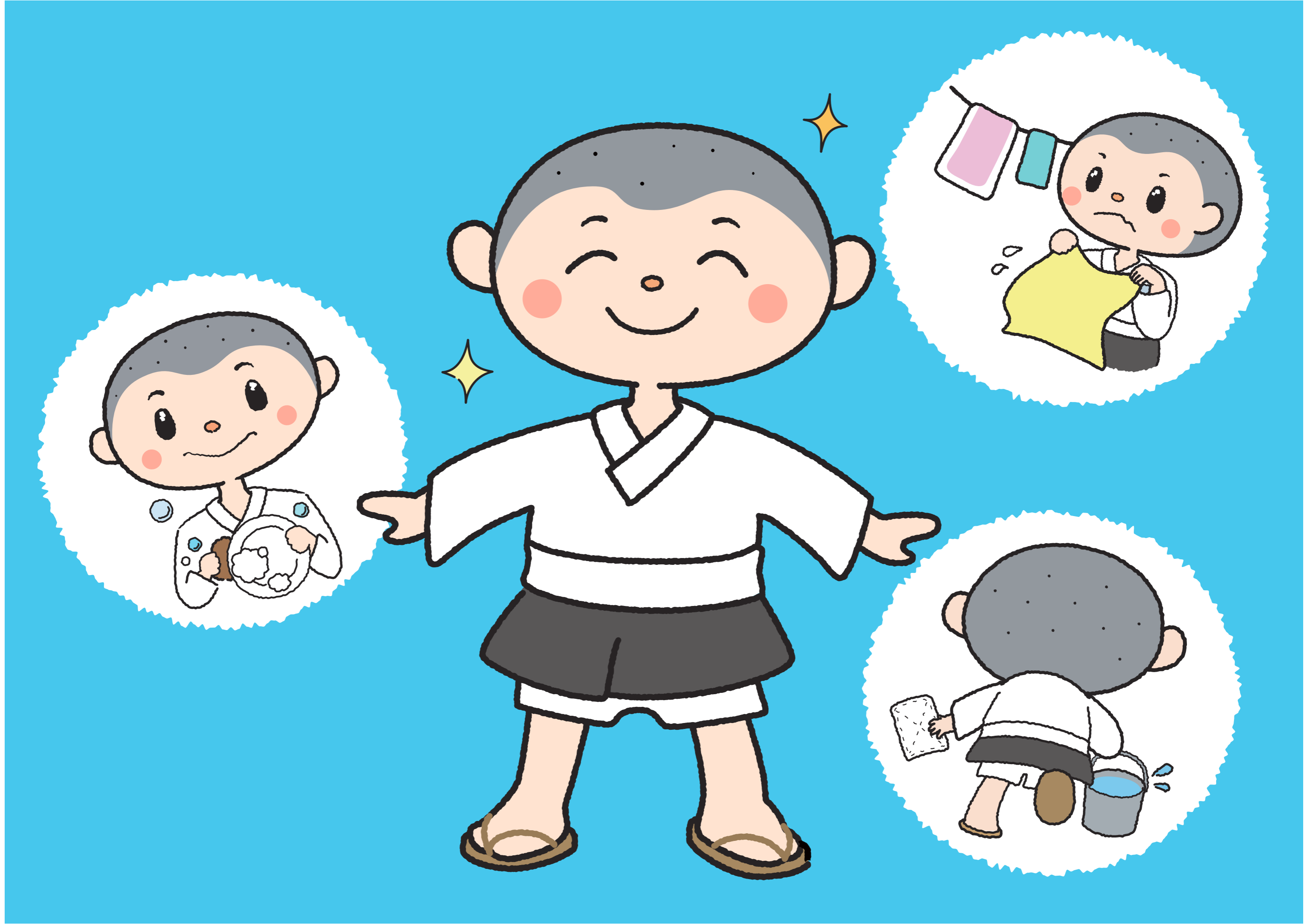


さく おおたくけんせつこうじか
え ごとうりさ

絵①

むかしむかし、^{おおもりむら}大森村の^{しゅうぜんじ}修繕寺というところに、
^{おてつだい}お手伝いが^{だいすき}大好きな、ちよっとうっかりものの、こそうさんがいました。





絵②

ある日、こぞうさんは、和尚さんからお使いを頼られました。

(和尚さん)「蒲田村の はしもりさんまで このおくすりを届けておくれ」

(こぞうさん)「はい」





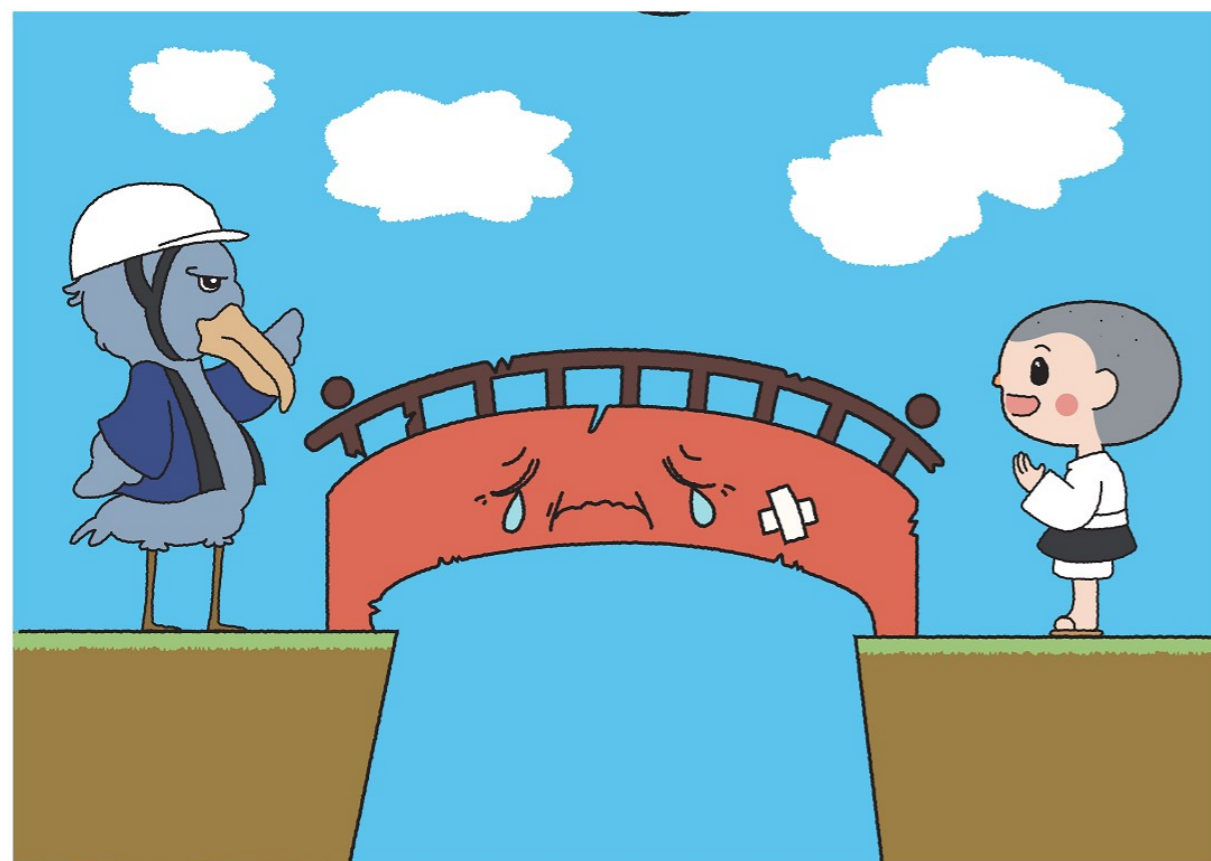
絵③

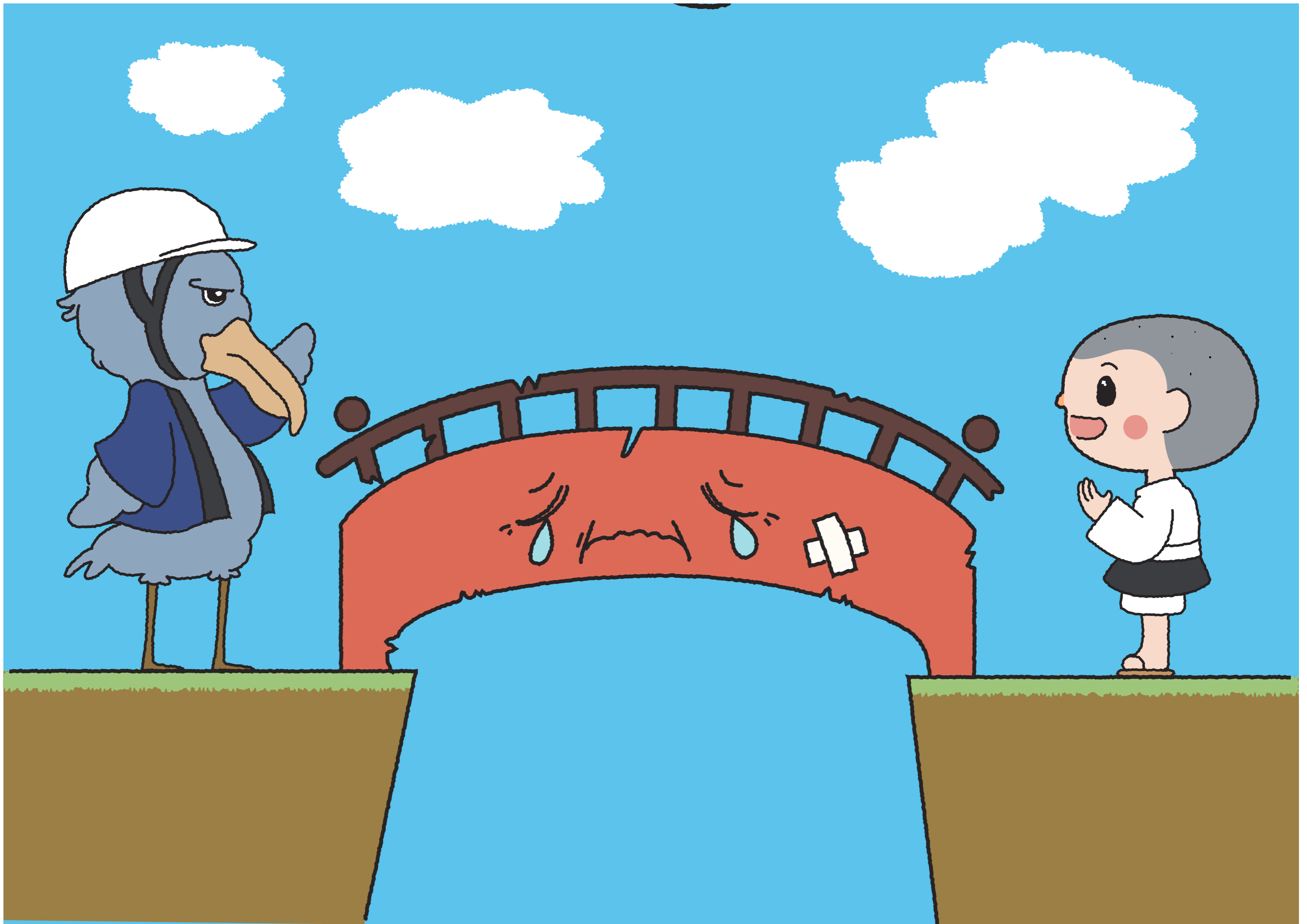
こぞうさんが蒲田村へ渡る橋まで来ると、橋の向こう側に、はしもりさんがいました。

(こぞうさん)「はしもりさん、こんにちは。何をしていますのですか？」

(はしもりさん)「橋さんがイタイイタイと言っているから様子をみているのじゃ」

こぞうさんが橋さんをよくみると、たしかに痛そうな傷があります。



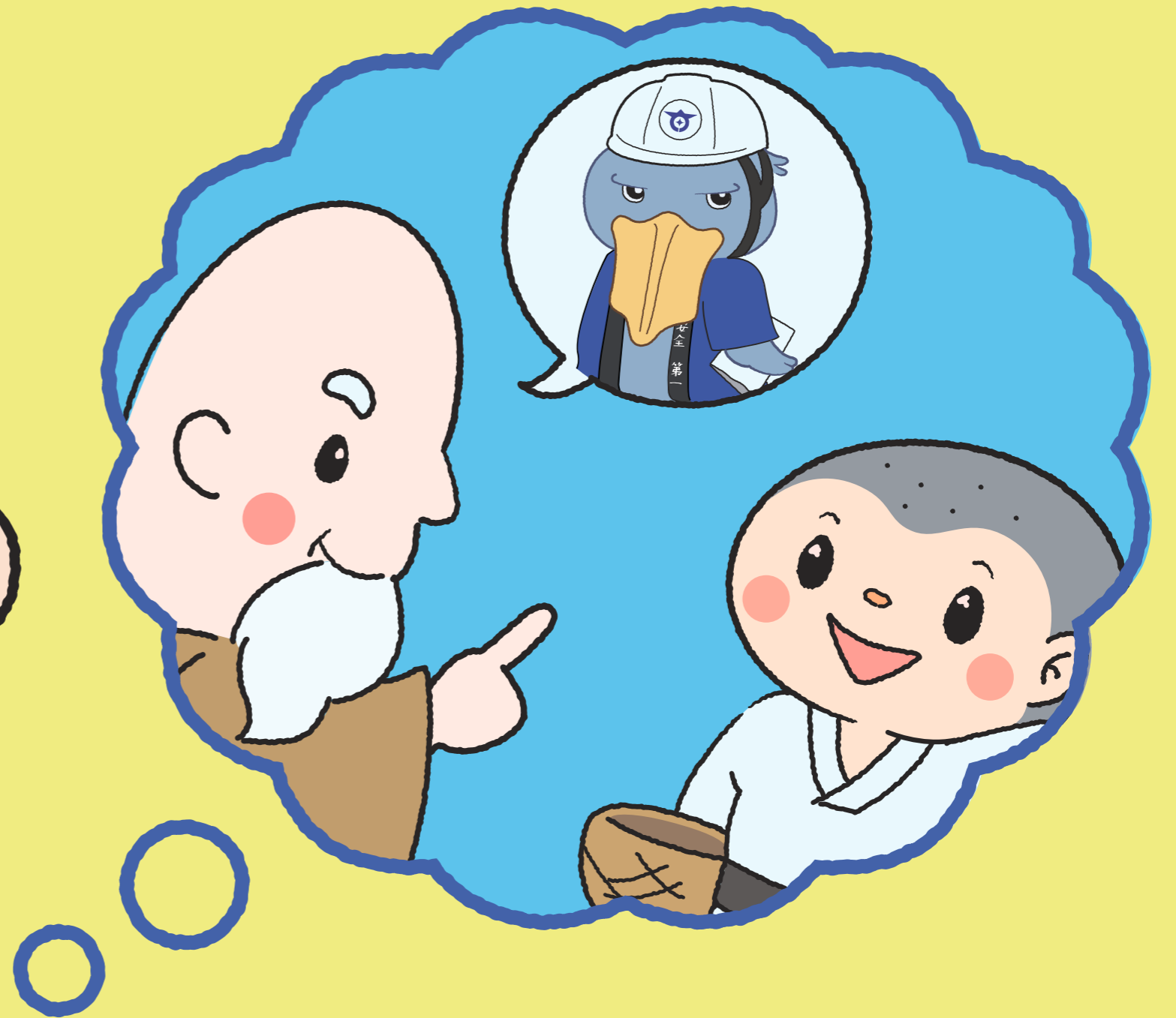


絵④

こぞうさんは、はしもりさんと話をしながら、和尚さんに頼まれていたお使用のことを思い出しました。

(こぞうさん)「あっ！そういえば和尚さんにたのまれたお使用のこと すっかり忘れていました！！」





絵⑤

こぞうさんは、てくてくと橋を渡っていきます。

(はしもりさん)「あっ!こぞうさん だめじゃ!」

(橋さん)「うわ~ん 痛いわ~!」

橋さんが目をうるうるさせて言いました。





絵⑥

はしもりさんは、こそうさんに言いました。

(はしもりさん)「この看板がみえなかったのかい!？」

(こそうさん)「あっ!ほんとだ!全然みていませんでした……。」





メンテナンス中

このはし
わたる
づから
ず

絵⑦

(こぞうさん)「そういえば、和尚さんから、はしもりさんに渡してほしいというかごを預かっています。」

(はしもりさん)「なんと！それを早く言わんか！！」

(こぞうさん)「何がはいつているのかなあ？」





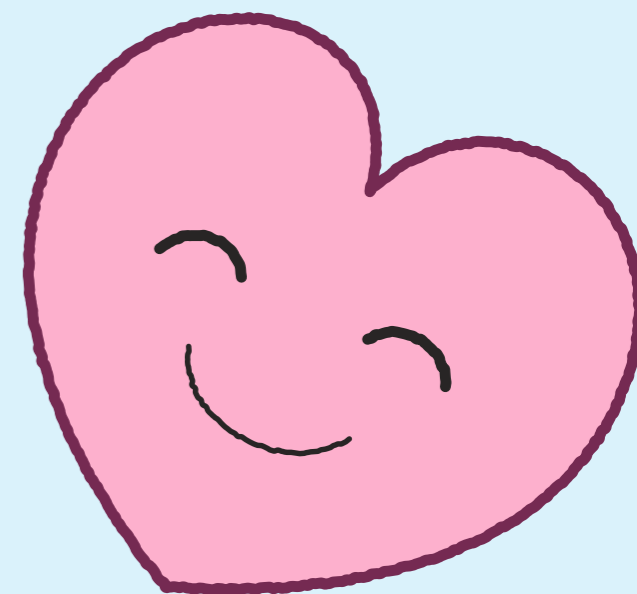
絵⑧

かごの中身は何でしょう？

(こぞうさん)「和尚さんは おくすりと言っていました。」

(はしもりさん)「水、砂、セメント…それからみんなの思い…これは橋さんのためのおくすりじゃ。」





絵⑨

はしもりさんと一緒にこそうさんは一生懸命、橋さんのためにおくすりを塗ってあげました。

ほかのこそうさんたちも集まってきました。

みんなで橋さんをきれいにしています。





絵⑩

すると橋さんは、ひびわれのしわも取れてお肌もピッカピカ、なぜか、まつ毛も長くなっています。

(橋さん)「わ～、痛さもなくなって すっきりしました。なんだか若返ったみたいだわ!

はしもりさん、こそうさん、みなさん、どうもありがとう!」

(こそうさん)「良かったです～!」

(はしもりさん)「一件落着じゃ。こそうさん、ありがとう。和尚によろしく伝えておくれ。」





はしもりさんやこそうさんたちが やってくれたことは『橋のメンテナンス』といます。

これは 橋さんが長生きするために とても大切なことなんです。

今日をきっかけに 橋さんを渡るときに このことを思い出してもらえたら、

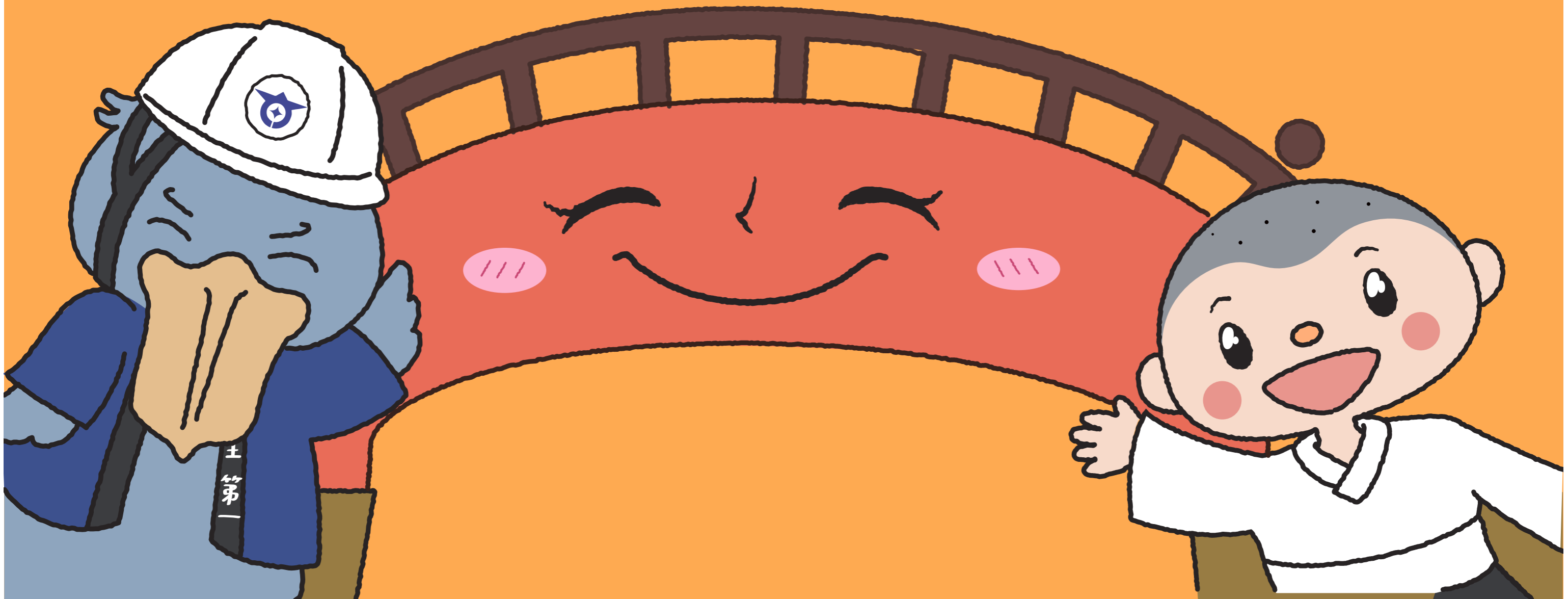
それから、自分もメンテナンスのお手伝いをしてみたいな、と思ったら声をかけてもらえると嬉しく思います。

おしまい



おしまい

はしさんと出会ったら大切にづかってね！



表紙

みなさんに橋のことを知ってもらいたいという思いから、紙芝居をつくりました。

紙芝居「このはし わたるべからず メンテナンス編」のはじまり、はじまり！！

